

International Open Innovation Symposium

2026 11.13 Fri. 10:00-17:00

[テーマ] **知をつなぎ、未来を創る** ー見て、触れて、つなぐ産学の未来ー

日時：10:00-17:00 (9:30受付開始) 対象：どなたでもご参加いただけます (参加無料)。

会場：東京科学大学 大岡山キャンパス 西9号館 および オンライン (Zoom)

最寄り駅：東急大井町線・目黒線 大岡山駅 徒歩1分

申込方法：事前にお申込が必要です。右記二次元コードよりお申し込みください。(外部の登録ページへ移動します。)

お問い合わせ：IOIS運営事務局 Email: oi.info@cim.isct.ac.jp

主催：国立大学法人 東京科学大学 産学共創機構・医療イノベーション機構・イノベーションデザイン機構

協賛：トヨタ自動車株式会社 株式会社みらい創造インベストメンツ 三菱地所株式会社

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 株式会社先端技術共創機構 泉陽興業株式会社 株式会社WIL

株式会社エヌジェイアイ 株式会社Revival Core

株式会社ブロードリーフ 日本材料技研株式会社 東急株式会社 エボニックジャパン株式会社

協力機関：国立大学法人室蘭工業大学 国立大学法人九州工業大学 独立行政法人中小企業基盤整備機構

公立大学法人北九州市立大学 川崎市 北九州市



International Open Innovation Symposium 2026

知をつなぎ、未来を創る 一見て、触れて、つなぐ産学の未来ー

2026 11.13 Fri.
10:00-17:00

[Program]

デジタル
多目的ホール

Session1 開会挨拶&講演 (10:00-11:30)

- 10:00-10:05 開会挨拶 [東京科学大学 理事長 大竹 尚登]
- 10:05-10:10 来賓挨拶
- 10:10-10:30 講演「Visionary Initiatives(仮題)」
[東京科学大学 理事・副学長(イノベーション担当) 古川 哲史]
- 10:30-10:50 講演「Global Vision Coordination Center(仮題)」
[東京科学大学 執行役副学長(産学官・地域連携担当)／産学共創機構長・教授 大嶋 洋一]
- 10:50-11:10 講演「AI-Science Nexus(AISNeC)センターのビジョンと目標(仮題)」
[東京科学大学 情報理工学院・教授／AISNeCセンター長 篠田 浩一]
- 11:10-11:30 講演「スタートアップ・エコシステムにおける大学発スタートアップ支援の役割(仮題)」
[東京科学大学 イノベーションデザイン機構長／環境・社会理工学院・教授 木村 英一郎]

Session2 各教員の研究内容紹介 (13:30-15:30)

- AI
情報理工学院 特任教授 佐藤 郁郎
「セーフティクリティカルな制御システムに向けた信頼性の高いAI基盤の構築」
情報理工学院 教授 小池 英樹
「AI+XRIによる人間拡張: スポーツと音楽への応用」
- エネルギー
13:30-15:30 総合研究院ゼロカーボンエネルギー研究所 副所長 教授 小林 能直
「福島第一原子力発電所事故の進展に関する材料科学」
総合研究院ゼロカーボンエネルギー研究所 准教授 近藤 正聡
「液体金属で原子力のかみこみ挑戦ー東京科学大発スタートアップのLeadacel社が目指すADS核変換の社会実装ー」
- 環境社会
環境・社会理工学院 教授 野原 佳代子
「ハイブリッド・イノベーション: 科学・技術・芸術・デザインを横断し、つなぐ思考法」
環境・社会理工学院 教授 千々和 伸浩
「経年変状を考慮した鉄筋コンクリート構造物の性能予測評価手法の開発」

Session3 ラボツアー (15:40-17:00) ※現地参加のみ・定員あり

- 15:40-17:00 「AI研究室見学」
情報理工学院 佐藤研究室・小池研究室
「Science Tokyo GXI 大岡山ラボ見学」
「野原研究室見学」
①持続可能な陶芸ワークショップ
②LEGOを使ったミニ体験ワークショップ
「建築・土木研究施設見学」

湯島キャンパス 病院ツアー (13:30-15:30) ※現地参加のみ・定員あり

※ラボツアー・病院ツアー6つのうち1つをご選択いただけます。
定員によりご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。

メディアホール・
コラボレーション
ルーム

協賛機関・協力機関・協働研究拠点等によるブース展示

産官学の様々なパートナーが集結!

普段は接する機会の少ない専門家や研究者と直接言葉を交わし、
最先端の知見や現場のリアルな熱量に触れられる絶好の機会です。